

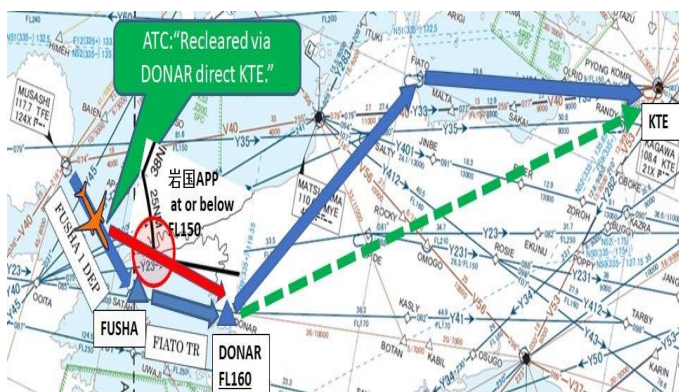
【RECEARED VIA による経路変更】

1. RECLEARED VIA の落とし穴

① 出発機の経路免脱

大分空港からの出発機が、FUSHA ONE DEP, FIATO Transition で飛行中、FUSHA の手前で “Recleared via DONAR direct KTE.” の指示を受領しパイロットは正確にリードバックしました。

しかし2分後、管制官は当該機がFUSHA を経由せずDONARへ直行していることに気付く、結果として当該機は許可なく岩国進入管制空域境界線沿いを飛行しました。(VOICES FEEDBACK 2022-3)



② 頻発するパイロットの不正確なリードバック

新千歳空港や道北からの出発時、TOBBYの手前で管制官から “Recleared via TOBBY direct RUBIS” と指示された時に、パイロットが “Recleared direct TOBBY direct RUBIS” とリードバックするため、管制官が復唱の訂正を求めるケースが後を絶ちません。

2. 管制承認の変更・・・4つのパターン

管制方式基準(Ⅱ)1(7)C【管制承認の変更】には飛行経路を変更する手続きとして4つのパターンが記載され、以下の2つは良く耳にする管制指示です。事例紹介のケースは (b) の誤った理解が背景にあります。

- (a) ～略～
- (b) 変更部分の経路を述べる。
RECLEARED [amended route]
〔例〕 Recleared via R220 Daigo VORTAC direct Miho VORTAC.
- (c) 飛行経路上のフィックスに直行を承認する。
RECLEARED DIRECT [fix]
〔例〕 Recleared direct CHOKA.
- (d) ～略～

3. 管制官がRECLEARED VIA を使うメリット

Recleared via (fix) direct (fix)は、2006年の管制方式基準改正で管制承認の変更を指示する用語の一つとしてICAO PANS-ATMに準拠し追加されました。

管制官は経路変更の指示を予定している場合、早めに将来の指示を出すことでワークロードが軽減できます。それにより繁忙時の通信時間が減り、次の指示を考える思考時間が確保できる有効な方法とされています。

しかし、実態としてはパイロットに伝わりにくい用語であることを管制官も認識しており、“After (fix) direct (fix)” と言い直すケースもあるようです。

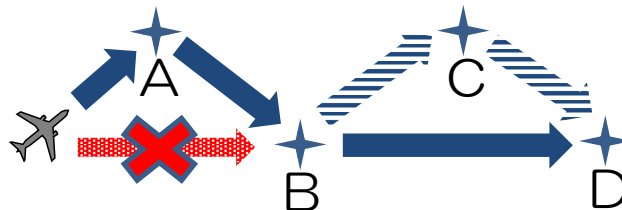
4. RECLEARED VIA と類似した過去の経路変更指示

管制官が経路変更を指示する際、以前は “Cleared via present position direct (fix)” が使用されていましたが、2006年の管制方式基準改正により削除されて現在では使用されなくなりました。

5. RECLEARED VIA の正しい解釈は・・・

承認経路はA-B-C-Dと仮定します。Aに飛行中の航空機に、Aの手前で “Recleared via B direct D” と指示された場合、飛行経路はA-B-Dとなります。

しかし上記事例①では、パイロットは正確にリードバックしましたが、現在位置からBに直行しています。また、事例②ではBに直行するというリードバックが間違っており、管制官に指摘されました。



“via B direct D” の意味するものは、B以降の経路変更であり、B以前の経路に変更はありません。したがってBまでは承認された経路を飛行することが求められています。

この「ATC再発見 *Radio Telephony Meeting*」は、JAPA ATS 委員会と ATCAJ 技術委員会が参加している R/T Meeting で討議されたテーマを共有して、「安全で効率の良い運航と航空管制」のために発行しています。